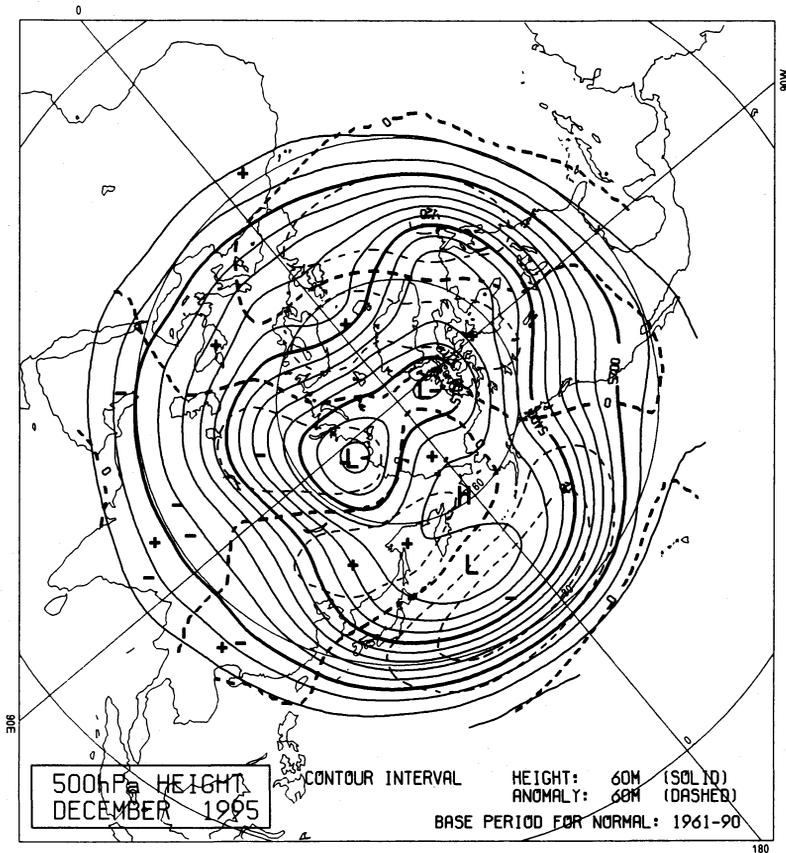


1995年12月の大気大循環と世界の天候
月平均 500 hPa 天気図



(破線は平年からの偏差。単位m)

表 1 1995年12月の気候表

地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	3.2	-1.0	-0.5	49	88	3	カサブランカ	15.9	2.8	2.3	93	117	4
マドリード	8.4	2.0	1.5	100	193	5	バマコ	25.4	1.1	1.0	0	0	—
ワルシャワ	-5.3	-4.4	-1.8	16	50	—	プレトリア	20.6	-1.2	-1.2	187	179	5
イスタンブール	7.7	-0.4	-0.3	82	67	1	バンクーバー	4.8	1.4	0.8	221	124	4
モスクワ	-9.5	-3.4	-1.1	37	70	—	セントルイス	1.0	0.2	0.1	72	93	4
オデッサ	-2.0	-3.4	-1.9	35	74	2	サンフランシスコ	12.1	2.6	2.0	163	207	5
ニューデリー	15.5	0.0	0.0	1	9	4	ニューヨーク	1.2	-1.3	-0.6	55	64	2
カルカッタ	21.3	0.6	0.7	0	0	4	メキシコ	14.5	0.5	0.3	64	941	6
ボンベイ	—	—	—	—	—	—	アスンシオン	26.8	-0.3	-0.2	104	77	2
ホンコン	17.0	-0.6	-0.5	10	36	3	ブエノスアイレス	24.4	1.4	1.2	73	64	3
チャンチュン	-10.4	2.0	0.9	6	162	5	ホノルル	26.2	2.8	4.0	33	34	2
ベキン	-0.4	1.9	1.3	3	130	4	タヒチ	26.5	0.1	0.2	549	174	5
シャンハイ	6.2	—	—	14	—	2	ダーウイン	28.4	-0.7	-1.2	198	76	3
バンコク	26.6	0.5	0.4	0	0	—	キャンベラ	16.8	-1.8	-1.5	61	108	4
マニラ	—	—	—	—	—	—	シオウワキチ	—	—	—	—	—	—

12月の世界の天候

北半球 500 hPa 高度場を見ると、50°Nより北の高緯度ではタイミル半島からウラル山脈付近にかけて負偏差域になった他は、ほとんどの領域が正偏差に覆われた。中緯度帯は、北太平洋および北大西洋で負偏差域が大きく帯状に広がった。また、北半球東西指数は-86 m となり、1946年以降12月としては第1位の低指数であった。

①中国東北部から中部にかけての多雨

西シベリアや中国東北部～中部では多雨となった。

②日本南部からミャンマーにかけての少雨

東シベリアや日本、中国東北部で少雨となったほか、アジア南部でも少雨の所が多かった。

③インドの高温

インドで高温となったが、月後半にネパールやバンラデシュが寒波に見舞われ、数十人の死者が報じられた。

④ヨーロッパ北部の少雨

ヨーロッパ中部や北部、ロシア西部で少雨となり、また平年より2°C以上低い気温となった。下旬にはヨーロッパ北部の各地で強い寒波による被害が報じられた。

⑤ヨーロッパ南西部とアメリカ北西部の高温多雨

ヨーロッパ南西部では高温・多雨となり、スペインのマドリドで月平均気温8.2°C(+3.2°C)、月降水量94 mm (273%)であった。

⑥北アメリカの少雨

カナダ西部やアメリカ合衆国東部で平年より2°C以上低い気温となり、また少雨となった。合衆国のハッテラスで月降水量0 mm (平年値 114 mm)であった。

⑦南アメリカ南部の高温少雨

アルゼンチンでは高温・少雨となり、バリロチェで月平均気温17.8°C(+4.9°C)であった。ベネズエラやブラジル北東部でも少雨傾向となったが、ブラジル南東部では下旬に洪水による50人以上の死者が報じられた。

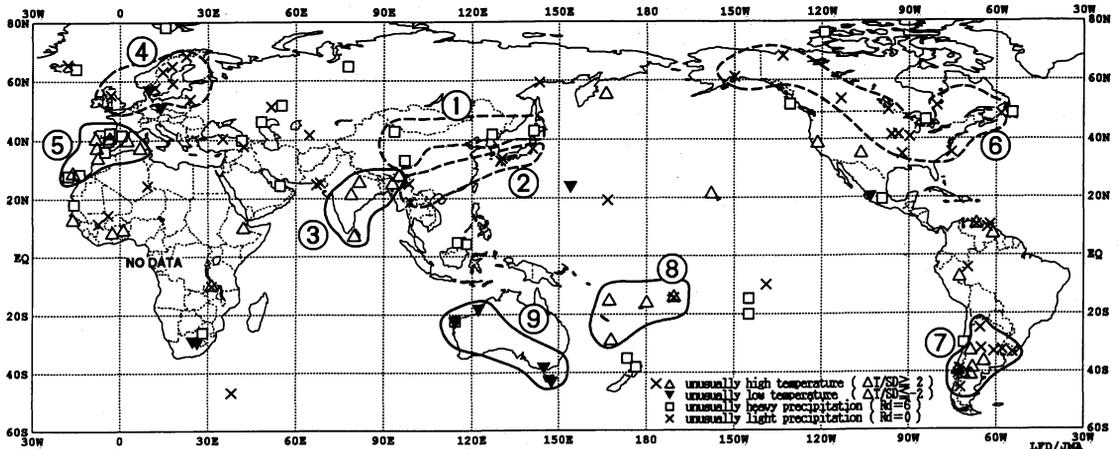
⑧メラネシア南部の高温

メラネシアやポリネシア北部では高温となった。

⑨オーストラリアの低温

オーストラリア南東部や西部では低温となり、メルボルンで14.1°C(-3.6°C)であった。

(長期予報課 石原幸司)



1995年12月の世界の異常天候分布図

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

△：高温 ▽：低温

□：多雨 ×：少雨

1995年12月の気候表の説明。平均値は、1961～1990年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500 hPa 高度場の平均値は1961～1990年の30年平均値。

近年の準2年振動 (QBO) の状況

長期予報課では赤道域成層圏東西風の準2年振動 (QBO: Quasi-Biennial Oscillation) の監視を行っている。下の図は1990年から1995年までのシンガポール (1.4°N) での高層観測データを月毎に集計して作成した、成層圏東西風速の時間-高度断面図である。等値線間隔は 10 m/s, 点彩域は東風の領域を示している。

下の図から近年の状況を見ると、準2年振動の周期は順調に推移しているのがわかるが、西風の期間は比較的短くなっている。1989年の終わり頃から始まった

20 hPa 付近の西風の期間は約16か月と比較的長いのに対し、次の2回の西風の期間は約11か月と短かった。

1993年の春から東風が下降を始め、1994年の夏に 70 hPa に達した。一方、1994年の夏に成層圏上層に西風が現れ、1995年初め頃に約 50 hPa に達した。1995年の春頃から東風に変わり始め1995年末までに約 40 hPa に達している。

(気象庁予報部長期予報課 吉松和義)

